



ひまわりノ畑



教育目標 思索・和敬・剛健

学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう

<http://www.kivose.ed.jp/kivosedaijichuuzakku/index.htm>

梅雨は紫陽花を眺めながら読書でも

関東地方が梅雨に入って2週間がたちましたが、不快指数が上がる本格的な五月雨（さみだれ）はこれからです。しかし、しとしと降る雨は、自然にとっては恵みの雨で、草木をぐんぐん育ててくれます。この季節、学校の中庭や街中では、紫陽花（あじさい）が美しく色づき、雨の季節を彩ってくれています。あじさいには、八仙花（はっせんか）という別名がありますが、これは、花の色が変わることから付けられた名称です。色が変化するのは、土の性質（pH）の影響で、同じ花でも、酸性の土では青色、アルカリ性では赤色をおびます。敏感に反応しますので、同じ木でも花ごとに違ったりもしますので、傘をさして眺めるのも楽しいです。



夏至の日「薄明」は朝4時前、「薄暮」は夕方7時半頃まで、昼は14時間以上

6/21は夏至の日でした。太陽の南中高度は一年で最も高く、東京では78度とほぼ真上、日の出は4:25、日の入は19:00、昼は一年で最も長く14時間35分でした。この時期、昼は長いのですが、雨のため外で体を動かすこと減りますがその反面、室内で落ち着いた時間を過ごし、自分と向き合う良い機会です。そこでこの梅雨の時期には、読書に浸ることを勧めたいです。本の世界に入ること、想像力が広がり、新しい価値観、異なる考え方などに会うことができます。毎日の読書で、心が豊かになり、語彙力が高まり、言葉の力も増し、表現力が伸びるなど、良いこと尽くしです。それ以外にも、自宅で定期考査を振り返って苦手な教科の復習をしたり、身の回りの整理整頓、学校の昼休みでは、読書をしたり、友達と穏やかな時間を過ごしたりと、有意義に過ごして欲しいです。

梅雨の季節は、草木も人も成長の季節としましょう。

日が長く、雨の日が続き、気持ちが沈みがちになりますが、見方を変えれば、静かな時間の中で、思索を深めたり、新しい発見をする機会でもあります。考え方次第、行動次第で、梅雨の季節は、植物と同じように成長の季節にもなります。いよいよ1学期もあとひと月ほどで、まとめの時期に入ります。気持ちよく夏休みに入れるように、一日一日を大切に過ごしましょう



6/23は沖縄慰霊の日「忘れてはならない4つの日」

宮内庁は戦没者慰霊のために『忘れてはならない4つの日』として、「沖縄慰霊の日 6/23」

「広島原爆の日 8/6」「長崎原爆の日 8/9」「終戦記念日 8/15」をあげています。

これは、上皇陛下が皇太子時代の会見で、記者から慰霊についての質問に対する「日本では、どうしても記憶しなければならないことが四つあると思います。～中略～そして平和のありがたさというものをかみしめ、また、平和を守っていききたいものと思っています。」との談話に始まるそうです。また別の談話では、「平和は、戦争がないというだけの受け身な状態ではなく、

平和の持続のためには、人々の平和の真摯な願いと、平和を生きる強い意志が必要ではないかと思います」とも述べられたそうです。犠牲者20万人以上の沖縄戦、14万人以上の広島と7万人以上の長崎の原爆、戦争全体では、日本人310万人以上、世界全体では8,000万人とも言われる太平洋戦争が終結してから81年が経ち、日本の人口の9割が戦後生まれとなりました。戦争が、体験したりアルな出来事から、歴史の出来事という知識になり、痛みの意識が薄れていく中、生徒の皆さんが平和とは何かを考え、平和を願う心を持ち続けてくれることを願います。



沖縄郷土料理 6/23の給食は、沖縄郷土料理です。一度は沖縄へ行かなければと思いながら、豚骨・鯖節・昆布の出汁が利いた「いなむどうち」や生姜が利いた炊き込みご飯の「しじゅーしー」に「にんじんしりしり」、そして黒糖が美味しい「ちんすこう」を頂きました。

ピース・エンジェルズ 清瀬市では毎年8月に広島慰霊式典に児童・生徒を派遣しています。

今年の選考は終了していますが、1・2年生の皆さんは来年の応募を考えて見て下さい。



■生成 AI の活用について考える 【教員校内研修】 6/17(水)

期末考査初日、6月17日（水）の午後、生徒の皆さんの下校後に校内研修機を行いました。本年度の本校の校内研修会のテーマは、「授業におけるICT・AIの効果的な活用術」です。すでに授業での活用実践の試みをしている教員もいれば、校務や教材制作に活用をしている教員、個人的には利用したことがあるが、まだ活用まではしていない教員など、その取り組みには差があります。

今回は最初に、主幹教諭の菊地先生が自己研鑽で受けられたセミナーの報告を受け、「生成AIで校務改善をするには」という内容で、生成AIの得意なこと・不得意なこと、任せて良いこと・任せすぎではいけないこと、安心して使うための原則など、全員が共通して持たなければいけない意識について話し合った後、教科グループに分かれて、それぞれの現在の実践についての意見交換をしました。



自然だより 2026 in Kiyose 植物編 01

R8,6,22

あじさい

紫陽花の花は、「酸性土壌」で、“青色”？

アジサイは、別名が八仙花や七変化と言われるように、咲いている間に花の色を変えたり、植えられた場所により、色が異なったりすることが昔から知られていました。日本の原生種は、ガクアジサイやヤマアジサイで、タマアジサイは日本固有の種類です。江戸時代の終わり頃、来日した医師で植物学者であったシーボルトが母国ドイツにヤマアジサイなどを持ち帰って紹介したところ、美しい日本の花として、ヨーロッパでブームとなって、品種改良も盛んに進み、繙咲きの西洋アジサイなどが誕生しました。そして大正時代になって、日本へ逆輸入されて日本でも人気が上がって、品種改良がさかんになり、現在では数千種類あると言われています。



アントシアニンは、《酸性 ⇒ 赤、アルカリ性 ⇒ 青》に変化

あじさいの花の色は、アントシアニンという物質によるもので、赤や青、紫色の花を付ける多くの植物もこの物質によります。小・中学校理科の水溶液の性質の単元で、酸性とアルカリ性について学ぶとき、紫キャベツの色素を煮出して作った液体で、pHを調べる実験をしたことがある人もいかもしれませんが、アントシアニンは、酸性の水溶液では「赤・ピンク系」、中性では「紫」、アルカリ性では「緑・青系」に変化をします。

アジサイの花は、《酸性土壌 ⇒ 青 アルカリ性土壌 ⇒ 赤》逆??

これは抽出した色素での話で、花が咲いているアサガオなど、多くの植物は、酸性やアルカリ性の水をあげても、花の色は同じで変わりません。しかし、アジサイは色を変える変わり者で、しかも、酸性土壌で青、アルカリ性土壌で赤と、アントシアニンのpH変化とは逆になります。

アジサイの色変化は、pH反応ではなかった！

アジサイの色変化は100年以上前から知られていたことですが、詳細な仕組みが解明されたのは2020年と、最近のことです。詳しい解説はネット検索をすると出ていきますが、専門的な生物や化学の話になっていますので、仕組みの流れだけを書いてみると、

- ①アルミニウムという金属は、土の中に、鉱物として多く含まれている
- ②酸性の環境になると、鉱物からアルミニウムがイオンとなって溶け出す。
- ③アルミニウムイオンは、水と共に根から吸い上げられ、花の細胞に届けられる。
- ④アルミニウムイオンは、助色素のフォローを受けて、アントシアニンと結合して、青くなる。
- ⑤この反応は、細胞単位で行なわれ、アジサイの七変化となる。



つまり、アジサイの色変化は、酸・アルカリの反応ではないということらしいです。

他の植物で色変化が起きないのは、そもそも、アルミニウムイオンは植物の成長を阻害する物質であり、アジサイには耐性があるが、多くの植物は吸収しない仕組みや、排出する仕組みを持っています。あるいは、助色素を持っていないので、結合が起こらないなどの理由で、色変わりはないということらしいです。